

ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 労働者災害扶助法第一條第一項第二號ハノ工事ノ事業主及勅令ノ定ムル事業主ハ政府ト保險契約ヲ締結スベシ但シ同法第三條第二項ノ場合ニ於テハ元請負人ニ於テ保險契約ヲ締結スベシ

第四條 保險契約者ヲ以テ保險金受取人トス但シ前條但書ノ規定ニ依リ元請負人が保險契約ヲ締結シタル場合ニ於テハ扶助ヲ引受ケタル下請負人ヲ以テ保險金受取人トス政府ハ前項ノ規定ニ拘ラス勅令ノ定ムル所ニ依リ扶助ヲ受クベキ者ニ保險金ヲ支拂フコトヲ得

第五條 保險契約者ガ惡意又ハ重大ナル過失ニ依リ保險料算定ノ基礎タル重要ナル事實ヲ告知セズ又ハ其ノ事實ニ付不實ノ告知ヲ爲シタルトキハ政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ保險金ノ全部又ハ一部ヲ支拂ハザルコトヲ得

第六條 保險契約者保險料ノ拂込ニ付遅滞シタルトキハ其ノ遅滞期間ニ於テ生シタル事故ニ對スル保險金ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ全部又ハ一部ヲ支拂ハザルコトヲ得

第七條 保險契約者又ハ保險金受取人が故意若ハ重大ナル過失ニ依リ又ハ労働者災害扶助法ノ工場法若ハ鑛業法ニ基ク危害豫防若ハ衛生ニ關スル命令ニ違反シタルニ依リ扶助責任ノ原因トシテ事故ヲ生シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ保險金ノ全部又ハ一部ヲ支拂ハザルコトヲ得

行前ニ著手積算ニ依ルモノニ付テハ積算與料ノ結算セラレタルモノニ付テハ第三條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

法律第五十六號 昭和六年四月二日公布

労働者災害扶助責任保險特別會計法

第一條 労働者災害扶助責任保險法ニ依リ労働者災害扶助責任保險事業ヲ經營スル爲メ特別會計ヲ設置シ其ノ歳入ヲ以テ其ノ歳出ニ充ツ

第二條 本會計ニ於テハ保險料積立金ヨリ生ズル收入、借入金及附屬雜收入ヲ以テ其ノ歳入トシ保險金、保險料ノ返還金、保險施設費、借入金ノ償還金及其ノ利子、一時借入金ノ利子、事業取扱費其ノ他ノ諸費ヲ以テ其ノ歳出トス

第三條 本會計ニ於テ決算上剩餘金ヲ生ズルトキハ之ヲ積立ツベシ
本會計ノ歳計ニ不足アルトキハ積立金ヨリ之ヲ補足スベシ
第四條 本會計ニ屬スル經費支辨スル爲メ必要アルトキハ政府ハ本會計ノ不撻ニ於テ借入ヲ爲スコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ借入ヲ爲スコトヲ得ル金額ハ純保險料ヲ以テ保險金及保險料ノ返還金ヲ支辨スルニ不足スル金額ヲ限度トス
第五條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ餘裕アルトキハ之ヲ大藏省預金部ニ預入ルコトヲ得

第八條 保險金支拂ノ義務及保險料返還ノ義務ハ二年保險料支拂ノ義務ハ一年ヲ経過シタルトキハ時効ニ依リテ消滅ス

第九條 保險契約者又ハ保險金受取人が労働者災害扶助責任保險ニ關スル事項ニ付政府ニ對シ民事訴訟ヲ提起スルニハ労働者災害扶助責任保險審査會ノ審査ヲ經ルコトヲ要ス前項ノ審査ノ請求ハ時効ノ中斷ニ關シテハ其ノ上ノ請求ト看做ス

第十條 労働者災害扶助責任保險審査會ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第十一條 本法ニ依リ保險ニ關スル書類ニハ印紙稅ヲ課セズ
第十二條 行政官廳ハ必要アリト認ムルトキハ當該官吏又ハ吏員ヲシテ本法ニ依リ扶助責任ノ保險ヲ付シ又ハ付スベキ事業ノ行ハルル場所ニ臨檢セシムルコトヲ得

第十三條 第三條ノ事業主保險契約ヲ締結セザルトキハ千圓以下ノ罰料ニ處ス
前項ノ過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ヲ準用ス

第十四條 正當ノ事由ナクシテ當該官吏又ハ吏員ノ臨檢ヲ拒ミ妨ケ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辭ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

本法ハ昭和七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
労働者災害扶助法第一條第一項第二號ハノ工事ニシテ本法適用

第六條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ不足アルトキハ本會計ノ負擔ニ於テ一時借入ヲ爲スコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ一時借入金ハ當該年度内ニ之ヲ返還スベシ
第七條 本會計ノ積立金ハ國債ヲ以テ保有シ又ハ大藏省預金部ニ預入レテ之ヲ運用スルコトヲ得

第八條 政府ハ毎年本會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製歲入歳出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スベシ
第九條 本會計ノ毎年度歳出豫算ニ於ケル事業費ノ支出殘額ハ之ヲ翌年度ニ繰越使用スルコトヲ得

第十條 本會計ノ歳入歳出ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
附 則
本法ハ昭和六年九月一日ヨリ之ヲ施行ス
一般會計ハ昭和六年九月一日ヨリ其ノ豫算ノ定ムル金額ヲ本會計ニ繰入ルコトヲ得

入營者職業保障法

法律第五十七號(昭和六年四月二日)

入營者職業保障法

第一條 何人ト雖モ被備者ヲ求メ又ハ(求職者ノ探査ヲ決スル場合)於テ入營(雇召ノ場合ヲ含ム)以下之ニ同ジ)ヲ命ゼラレタル者又ハ入營ヲ命ゼラルルコトアルベキ者ニ對シ其ノ故ヲ以テ不利益ナル取扱ヲ爲スベカラズ
第二條 雇傭者ハ入營ヲ命ゼラレタル被備者ヲ解雇シタルトキ